

# JR東海労なごや

2014年7月16日 No. 1000  
JR東海労名古屋地方本部  
発行者：山田哲也  
編集者：堀部肇

## JR東海労なごや1000号発行

私たち名古屋地方本部は、1991年8月18日に産声を上げ、今日まで平和な世の中の実現と、安全輸送の確立、労働条件の改善を目指し活動を続けてきました。とりわけ、私たちの活動と主張を明らかにするために、「JR東海労なごや」を発行してきました。そして、本日1000号を発行することができました。今日まで闘い続けてこられた全組合員の皆さんに感謝申し上げます。



名古屋地本結成大会

### 組織破壊攻撃に抗して闘い続けた東海労

私たちは、国鉄改革の精神を捨て去った経営陣による労働組合の御用組合化に反対し、国鉄改革の早期完遂を実現するために闘いを開始し、「東海の地に労働運動の灯を消すな」を合い言葉に東海労を結成しました。

こうした私たちの取り組みに対し、葛西副社長(当時)は、「1年でぶっ潰す」と公言し熾烈な組織破壊攻撃をかけてきました。しかし、私たちは労働者の根性を発揮し、組織破壊攻撃を跳ね返し労働運動の灯を赤々と燃やし続けています。

地本の闘いは、93年春闘での安全確認行動に対する報復的な処分攻撃、医適を口実にした「士職剥奪」、事故を口実にした不当転勤・不当出向、伊那松島分会への熾烈な組織破壊攻撃、分会組織破壊を狙った役員の不当転勤、利益誘導による脱退工作、出勤途中の事故に対する不当処分、昇給・ボーナスカットなどあらゆる攻撃がかけられました。私たちは、こうした攻撃に対して、地労委・裁判を闘い、伊那松島においては、現地で集会・デモを行い反撃の闘いをつくりだし、組織の団結を強化してきました。また、リニア建設の問題点を明らかにしながら、地域住民の皆さんと反対の取り組みを大きくしてきました。

最大の闘いは、主任レポート反対の闘いが大きく作り出される中で、会社は加藤業務部長(当時)に、報復的に懲戒解雇の不当処分をかけてきました。私たちは主任レポート拒否、抗議ストライキ、裁判闘争を総力あげて闘い抜いてきました。そして、このつくりだした力を持って、11年には平成採の青年を私たちの仲間を迎入れることができました。

### さらに団結を強化して闘おう！

時代は、安倍自民党政権の暴走によって、戦争をする国づくりが着々と進められています。現在は、昭和初期に酷似していると言われます。私たちは、平和を守る闘いをさらに強化し、労働条件の改善、安全安定輸送確立を目指し闘い抜きます。組合員の皆さん！さらに団結を強化し闘いましょう。

